

教育委員会の事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書
(平成30年度分)

令和元年11月

豊前市教育委員会

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価

- 豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

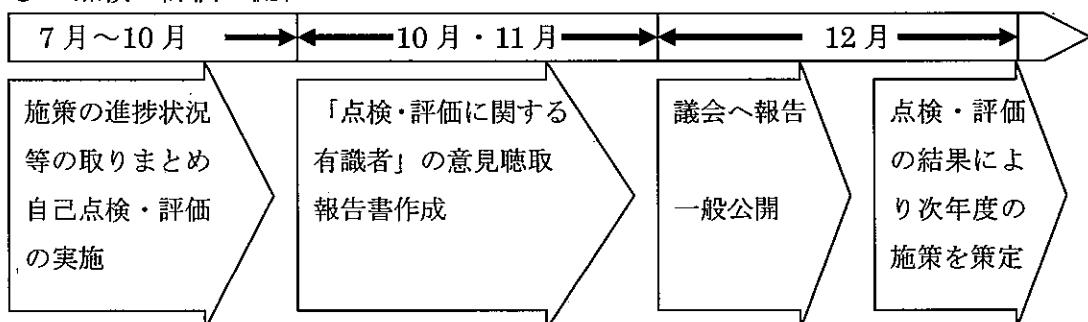
（参考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、前年度の事業を対象とします。
- 上記に関連する事業は、事務事業一覧表のとおりです。
- 点検・評価は、事業それぞれについて所管係が点検・評価シートを作成し、目的、内容、達成状況、事業の課題について検討した結果を総合的に判断し、A（期待以上）、B（期待どおり）、C（やや下回る）、D（期待以下）にわけて自己評価を行いました。
- 点検・評価については、教育に関し学識経験を有する第三者に外部評価をしていただきました。
- 点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を豊前市議会（文教厚生委員会）に報告するとともに一般に公開します。
- 点検・評価の結果により、評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業は課題の解決や、見直しを検討していきます。
- 点検・評価の流れ



豊前市教育委員会点検・評価事務事業一覧

大区分	小区分	事務事業		ページ
就学前教育	1 楽しく充実した幼児教育	1 小・中・高校、幼稚園及び保育所の連携		1
学校教育	2 楽しく充実した学校	1 小規模校の教育活動の充実		2
		2 学校施設の機能更新		3
		3 特別支援教育総合推進事業の取組		4
		4 学力向上に向けた取組		5
		5 放課後支援事業(ぶぜん学び道場寺子屋)		6
		6 心の問題への対応		7
		7 教育環境の充実		8
		8 効率化・安全性を考慮した学校給食		9
	3 防災教育の推進	1 被災地復興体験学習		10
社会教育	4 社会教育推進体制	1 社会教育主事の活用		11
	5 青少年教育	1 体験学習の推進		12
		2 地域との連携		13
		3 各種団体への支援		14
	6 社会人への支援	1 学習機会の提供		15
		2 地域の課題解決に向けた人材育成		16
	7 公民館運営	1 地域活動の拠点としての体制整備		17
		2 施設機能の整備		18
スポーツ振興	8 地域スポーツの振興	1 総合型地域スポーツクラブ事業		19
	9 スポーツ活性化	1 青少年のスポーツの振興		20
	10 施設の整備	1 体育施設の整備		21
生涯学習	11 生涯学習推進体制	1 豊前市生涯学習推進基本計画		22
	12 情報提供	1 生涯学習プログラムの構築		23
	13 生涯学習の実践	1 市役所職員による出前講座の実践		24
		2 ボランティアの推進		25
文化財の保護と活用	14 文化財の整備と活用	1 豊前市歴史文化基本構想の推進		26
	15 文化財の公開	1 展示施設の整備と教育普及活動		27
		2 各種情報の発信		28
	16 無形民俗文化財の伝承	1 保存と伝承活動の支援		29
	17 歴史遺産の活用	1 ガイドボランティアの支援		30
芸術文化の振興	18 芸術活動	1 文化事業の実施、場の提供		31
	19 読書活動	1 豊前市立図書館の充実		32
		2 学校図書館との連携		33

就学前教育

1 楽しく充実した幼児教育

早期からの情報提供や相談会の実施などによる柔軟できめ細かな対応ができる一貫した支援体制を整え、保護者の意見を尊重した就学先を決定します。

【点検・評価シート 就学前教育】

小区分	小区分	1	事務事業	1
小区分	楽しく充実した幼児教育			
事業名	小・中・高校、幼稚園及び保育園との連携		担当係	学校教育係
事業の目的	適正な進路の決定			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による知能検査や複数体制での就学（教育）相談を行い、幼児の様子について保護者の意見・意向の聞き取りをする。これをもとに必要に応じて教育支援委員会で審議し、保護者・本人の意見を尊重しながら進路を決定する。 			
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・就学（教育）相談件数延べ117件。教育支援委員会（臨時も含む）での判定件数31件。 ・幼稚園、保育園、福祉施設と連携し、就学に不安を持つ保護者や、「困り感」をもつ幼児の保護者に声かけや働きかけを行い、就学（教育）相談を促すことにより、不安を軽減するとともに就学に向けての準備や心構えを示唆する。 ・専門家（臨床心理士や作業療法士）による助言をもとに、相談者の障がいの程度や教育的ニーズに応じた就学先決定を支援する。 			
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園への巡回相談を保健師・作業療法士・早期支援コーディネーターとともに年2回（1回目：年長、2回目：年少・年中）半日かけて実施することで、園との連携が図れ、より広く深い情報を収集することができた。 ・専門家の的確なアドバイスにより、保育士等の意識と具体的な支援が変わったことで幼児の姿の変容が見られた。 ・就学先の学校への情報提供が早期に可能となったことで、入学前からの準備・入学後の迅速かつ適切な対応につなげることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の取組が、幼稚園・保育園ごとに差があり、支援を要する幼児の情報共有や就学時を見据えた連携が不十分な場合がある。 ・保護者の気づきの促進、意識改革をさらに図る必要がある。 			
評価	A	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る D期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問において、特別支援教育についての啓発を図るとともに、幼児や保護者への対応について指導助言を行う。 ・常に子どもの「よりよい育ち」を中心に、園訪問で共有した情報をもとに、保護者への気づきを促し、意識啓発できるようにする。 			

学校教育

2 楽しく充実した学校

教育内容及び教育環境を充実させることは、学校教育を充実する上で最も重要な施策であり、小規模の教育活動、学校施設の機能更新、特別支援教育など、楽しく充実した学校づくりに取り組みます。

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	楽しく充実した学校	小区分	2	事務事業	1
事業名	小規模校の教育活動の充実	担当係	学校教育係		
事業の目的	小規模特認校制度を継続し、児童・生徒数の少ない学校でのきめ細やかで特色ある教育に取り組み、児童・生徒数の増加を図る。併せて、角田小・中の連携について検討する。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員（講師）の配置等により小規模校の活性化を図る。 ・大村小学校に加え、角田小・角田中学校、合岩小・中学校についても、小学校・中学校合同行事や地域住民の参加行事を増やし、地域との繋がりを深める。 ・大村小学校、合岩小学校、合岩中学校を小規模特認校とする。 ・広報誌等を活用し、児童・生徒数の増加を図るとともに、各学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間での児童数による格差（複式学級等）を解消するため、小規模校へ市費負担非常勤講師（2人）を配置した。 ・5月に合岩小・中学校、並びに、角田小・中学校の合同運動会を開催したり、お互いの行事を参観したりして、小・中学校の枠を超えた縦割りの共同教育活動を実施できた。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に豊前市費負担の常勤・非常勤講師を任用し、小規模校の複式学級解消に努めた。 ・特色ある教育の推進として、合岩小・中学校連携での英語教育の向上、コミュニケーション能力の育成を図った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒数の減少による学校間の格差や保護者の不安感がある。 ・市費負担非常勤講師の人材確保が困難である。 ・中学校の小規模校では、部活動が充実していない、人間関係が固定するなど心配する声が聞かれる。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の減少に伴い、小規模校の複式学級化及び少人数化が懸念されるため、市費負担非常勤及び常勤講師任用の充実を引き続き要望し、複式学級の解消に努める。 ・急速な少子化に伴って、市内全ての学校で小規模校化が進んでいる。今後、学校規模の適正化という観点からも、市内の学校全体の将来的に望ましい姿を検討していく中で、現在の小規模特認校の位置づけについても、再検討していく必要がある。 				

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	2	事務事業	2
小区分	楽しく充実した学校		
事業名	学校施設の機能更新		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校施設の修理・修繕を行う。 ・屋上防水や外壁劣化、トイレ等の改修を行う。 		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年代建設校舎が一斉に老朽化しているため、修理・修繕を行う。 ・時代に沿った学校生活の環境を改善する。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の大阪での地震によるブロック塀倒壊事故を受け、市内小・中学校のブロック塀の点検を行い、危険な個所についてはフェンス設置工事を行った。 ・中学校の消防設備の修繕を行った。(八屋中・消水管布設替工事等) 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急性を要するものを優先し、整備することができた。また、特別支援教育における合理的配慮として、児童・生徒が希望する学校へ入学するための施設面での整備ができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の老朽化に伴う修理・修繕費は、年々増加している。緊急の修繕が発生することもあり、予算の確保が困難になっている。 ・学校トイレについて利用に抵抗感のある児童・生徒が多くなっており、洋式トイレへの改修は喫緊の課題になっている。 		
評価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・公共施設等総合管理計画に基づき、学校施設の「個別計画」・「長寿命化計画」を策定し、これらの計画をもとに、改修順位も含めた施設改修の計画やコストの見直しなど、計画的な施設管理を進めていく。
-------	--

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	3	
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	特別支援教育総合推進事業の取組 (早期からの教育相談・支援体制構築事業の取組)		担当係	学校教育係	
事業の目的	障がいのある児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うために、その体制の整備を総合的に推進する。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の巡回相談対象児童・生徒に対し、臨床心理士・言語聴覚士等による具体的な教育支援・心理支援の方法、特別支援教育担当指導主事・築城特別支援学校の教員による学習支援の方法等を示唆してもらい、一人一人の障がいの状態や特性に応じたきめ細かな指導を図る。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実態に応じて申請してもらい、臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士・特別支援学校教員等による巡回相談を実施した。 実施校においては、特に支援を要する児童・生徒の実態把握や具体的な支援方法等について学び、教職員間での共通理解を図った。また、保護者を含めた相談会を実施したり、支援体制を見直したりした。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童・生徒は増加傾向にあり、ニーズが高くなっている。そのため、迅速かつ的確な対応を求められるが、ここ数年周知が図られているため、十分な対応ができた。 ここ数年間の研修会等（全員研修会等）で教職員の意識が変わってきており、各学校での体制が整っていることから、相談につなぐ件数が確実に増えている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「早期からの教育相談支援体制・構築事業」として、市独自で予算を組み実施している。今後も事業の成果・課題をもとに充実を図っていく。 				
評価	A	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の相談に保護者を巻き込み、また、学校全体の指導の工夫と指導体制づくりに生かすことが大切である。 保護者を支える体制づくりを整えることが必要である。 年度当初に各学校長と特別支援教育担当者にこの事業についての周知を図り、回数だけでなく相談活動の内容の充実を図る必要がある。
-------	--

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	4
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	学力向上に向けた取組		担当係	学校教育係	
事業の目的	学習指導要領の趣旨に則り、教育課程の適正な管理に取り組み、児童・生徒に学習の量と質を保障する。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会指定の研究発表会を開催する。 ・校内研修に指導主事を派遣し、授業改善を図る。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の学力実態を多面的に把握し、各学校の指導方法の見直し・改善に生かすために、国・県レベルの学力テストに加えて、市独自の予算で標準学力検査も継続実施し、各学校におけるPDCAサイクルに活用できるようにした。(中学校:4月、小学校:12月) ・教育委員会の研究指定校制度を実施し、校内研究を計画的・継続的に推進し、児童・生徒が基礎・基本を確実に身につけ、自ら学び自ら考える力を育み、確かな学力の育成に取り組んだ。平成30年度は、研究指定を受けた宇島小と黒土小で授業公開・研究協議・講演等を行い、学力向上の取組の成果を発表し交流した。 ・各学校の教育課題や経営課題に応じた学力向上プランが実効性のあるものになるように、指導主事を校内研修に派遣し、適切な指導助言を行った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査での正答率は、小学校では、算数を除いて上昇傾向である。中学校では、理科が全国平均を上回り、他教科区分も有意差の範囲であった。 ・全国学力・学習状況調査結果や県学力調査、標準学力調査の結果を、各学校において、様々な観点から分析し、児童・生徒の実態に応じた独自の取組が推進されている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校が作成する学力向上プランが、各学校の学力実態に即した内容・方法になるように、さらなる取組の充実が必要である。 ・中学校における学力向上策の充実を図る必要がある。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において、全国学力・学習状況調査等の3つの結果をもとに数回のPDCAサイクルを回すことができるよう、研修内容の充実を図る。 ・中学校教員を対象にした研修会の実施、校内研修への指導主事の派遣を行う。 				

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	5	
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	放課後支援事業（ぶぜん学び道場 寺子屋）		担当係	学校教育係	
事業の目的	落ち着いた環境で自主的・主体的に学習に取り組み、家庭における規則正しい生活習慣づくりの基礎となる子どもの学習習慣の定着を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、小学校4年生、5年生を対象とし、平日の放課後、週1回1時間程度、自主的に学習できる環境を整備し、教員経験者等がコーディネーターとなり指導するほか、学習支援員には地域の人材を活用して、学習の援助や学習習慣の指導を行う。 ・児童は宿題や教科書の復習及び教育委員会が作成したプリント学習を行い、基本を確実に身につけ、自ら学び考える力を育み、自学を定着させ、学力の向上を目指す。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大村すこやか塾を実施している大村小学校を除く小学校9校にて実施した。（参加児童数77名、学習支援員31名） ・ICT機器等を活用した学習支援を実施するため、平成28年度にタブレットを導入し、教材アプリ導入の充実を図った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期を重ねるごとに宿題、問題プリントなどに集中して取り組み、自主学習の基礎づくりができた。 ・学習だけでなく「寺子屋訓」を復習することにより、挨拶を自主的にするようになり、規律の向上にもつながった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター、学習支援員の充実及び参加児童数の増加を図るため、広報、市ホームページなど各種媒体を活用するほか、放課後児童クラブへチラシを配布するなど、広報を行う。 ・各寺子屋の参加児童の学年が異なっていることから、参加児童の学年や年齢に合わせた学習内容にするように工夫する必要がある。また、タブレットなどICT機器の活用についても、各学級の状況に合わせて活用を進めていく必要がある。 ・合わせて、コーディネーター、支援員へのICT機器を活用した実技研修を実施し、技能向上を図る。 				
評価	B	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下
今後の対応	・ICT機器を活用した取組として、学校におけるICT授業との連携や予習復習など学習支援アプリの導入を進めていく。				

点検・評価シート【学校教育】

小区分	2	事務事業	6
小区分	楽しく充実した学校		
事業名	心の問題への対応		担当係 学校教育係
事業の目的	様々な事例に対応できるように、相談窓口の多様化・充実を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ」や「不登校」などの諸問題に対して、学校の組織的・計画的な取組強化及び家庭や地域社会と一体となった取組の充実を図る。 教育支援センター（適応指導教室）の活動の充実・促進を図る。 相談窓口として教育相談室にカウンセラー（臨床心理士）を配置する。 県費による各中学校へのスクールカウンセラーを配置し、活用を図る。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> カウンセラーと各学校教職員との連携による「いじめ」や「不登校」等への早期対応と継続対応の徹底、あわせて豊かな人間性を育む教育活動の推進が図られている。 教育相談室では、子育てや子どもの発達状態等で不安を抱える保護者をはじめ、指導に悩む教職員がとぎれることなくカウンセリングを受けている。相談件数は年間581件（来所：506件、電話：75件）であった。また、教職員・保護者を対象に教育講座を年2回開設し、子育てや児童・生徒支援に役立つカウンセリングの手法等について研修会を実施した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリング講座への参加者が年々増加しており、園・学校関係者の意識の高まりが見られる（参加者数①51人②43人）。 学校と連携した教育支援センター（旧適応指導教室）の継続的で適切な支援や指導により、教育支援センター（旧適応指導教室）を利用しながらではあるが、学校にも通学できるようになった児童・生徒もいた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談の申込が多く、順番待ちになることもあるため、相談日を増やす等の対応が必要である。 		
評価	A	A期待以上 B期待通り Cやや下回る D期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援センター（適応指導教室）と教育委員会・学校との連携をこれまで以上に図る必要がある。 カウンセラーへの相談の申込が困難な状況にあるとともに学校現場からの派遣要請が多く、さらに、相談日を増やす等の対応に努める。 スクールソーシャルワーカーの継続的な配置を含め、より積極的・組織的な教育相談の推進を図る。
-------	---

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	7		
小区分	楽しく充実した学校						
事業名	教育環境の充実		担当係	教育総務係 学校教育係			
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する学校教育について、子どもの「生きる力」を育み楽しく充実した教育を推進する。個性や価値観を尊重し、お互いを認め合う心や社会の変化に的確にかつ柔軟に対応できる力など、人間性豊かでたくましい子どもたちを育成するために学校の教育環境を充実させる。 						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において支援が必要な児童・生徒の適切な就学補助を行う。 ICT教育では、設備の充実とサポート体制の確立、及び教職員に対するICTの授業への積極的な活用の推進を行う。 英語に慣れ親しめる環境を整えるため、小・中学校に英語教育助手を配置する。 						
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童・生徒には、学校生活に支障がないように特別支援教育支援員（37名）を配置した。 ICT教育では、全ての小学校の授業用パソコンをタブレットに入れ替えることで、普通教室で電子黒板との一体的な使用が可能となり、授業に積極的に取り入れられる環境を整えている。 英語教育は、小学校では、昨年度に引き続き、合岩小に市雇用の常勤英語講師を専任で配置するとともに、2人の非常勤講師を配置したほか、新たに英語専科教員と外部委託の外国人英語助手を配置し、新学習指導要領の本格実施に先取りするかたちで実施することができた。また、中学校には1名の外国語指導助手（ALT）を配置した。 						
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校低・中学年から英語に慣れ親しみ、楽しさを実感させ、高学年から中学校へのスムーズな移行ができる教育体制が整えられている。 ICT教育に関しては、電子黒板やタブレットなどのICT機器を積極的に授業に活用することで、児童・生徒の興味関心を引くことに役立ち、学習意欲の向上につながっている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育を推進していくため、環境面の整備として、校内LANやネットワーク環境等をさらに充実させる必要がある。また、授業の充実や校務での活用を推進するためにICT支援員を継続・充実していく必要がある。 学校では多様な支援を必要とする児童・生徒が年々増加している。それに伴って、特別支援教育支援員についての人材確保と予算確保が毎年の課題である。 						
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下		
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員は、各学校の意向や実態を充分に確認し、適切な配置を行う。限られた予算と人員の中で可能な限り、効率的な運用ができるよう工夫する。 ICT教育は、教員各自がICTを活用した授業に積極的に取り組むことができるよう、研究授業やプログラミング教育のための研修会などを実施するとともに、必要な環境整備を更に進めていく。 						

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	2	事務事業	8
小区分	楽しく充実した学校		
事業名	効率化・安全性を考慮した学校給食	担当係	学校教育係
事業の目的	おいしく栄養面を考慮した献立		
事業内容	効率的な学校給食運営及び地産地消		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 地元産米を完全使用し、平成21年度から米飯を週4回実施している。 地場産食材活用推進協議会（農林水産課・小中学校長代表・学校栄養職員・調理員等で構成）、献立委員会（学校、調理員等で構成）を年3回開催し、地場産食材の学校給食への利用推進を図っている。 毎月、地場食材の日は旬の地場野菜を取り入れるほか、食材の説明、生産者の声などを記入したチラシを学校へ配布している。 平成30年度までに小学校6校、中学校3校の給食調理業務を民間委託した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての食物アレルギー対象児童へ対し、学校、教育委員会と協議し対応食の実施を行っている。 給食調理業務の民間委託により、民間事業者の専門的知識、経験、技術やノウハウを生かしながら、経費削減に努めた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年度から新たに小学校3校の民間委託を実施することにより、学校給食調理業務の殆どが民間事業者によることになる。今後、直営の学校での調理員の人材の確保と育成が急務である。 食物アレルギーによる除去食の対応が必要な児童・生徒が増加傾向にあり、個々に対応した給食の提供をするための人員が必要である。 給食調理室については、夏季には高温多湿の中、過酷な労働環境で調理作業を実施しているため、順次、空調設備の整備を計画する必要がある。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 今後、学校給食の民営化については、学校や現場の給食調理員等とも十分協議の上、関係機関とも協議しながら、継続していく。 学校給食の衛生管理については、研修を実施し知識や技術を向上させるとともに、施設改修を進めていく。 		

3 防災教育の推進

東日本大震災の現状を知り、復旧・復興に向けて取り組む人々の力強さや絆を学ぶとともに、防災意識の高揚を図ります。

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	3	事務事業	1
小区分	防災教育の推進		
事業名	被災地復興体験学習	担当係	学校教育係
事業の目的	自然災害の怖さ・凄まじさを学ぶ。 復旧・復興に向けてひたむきに取り組む人たちの力強さを学ぶ。 震災から立ち直ろうとする人たちの絆や連携について学ぶ。		
事業内容	体験学習を通して、社会性を習得し、豊かな人間性の育成を図る。 災害意識の高揚を図り、自分自身の課題としてこれから災害対策に生かす。		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の甚大な被害で、今も津波の爪痕を残す宮城県周辺の被災地や災害協定を結ぶ東松島市を訪れ、実際に震災を体験された方より、災害の凄まじさや当時の状況の説明を聞くことで、生徒、児童自身の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることのできた意義のある体験学習となつた。また、震災復興体験学習に先立ち2回の事前学習を実施した。 <p>【日程】平成30年8月22日～24日（2泊3日） 【参加者】市内小学生5・6年生 15人</p>		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災当時の被災地の映像や写真と、現在の状況を比較することで、災害を乗り越え、復興に向けた人々の努力や繋がり、力強さを学んだ。 「命の重さ」「自分の命は自分で守る」など震災復興体験を通じて防災意識の向上を図ることができた。 他校児童との交流を通じて、規律ある集団行動を実践し、互いに協力し合い、相互扶助の精神を培った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集枠に対して、申込み希望者数が多く、参加していない児童にも、学習してきたことを伝えていく必要がある。 参加した児童に留まらず、引率者も、防災教育についての意識を持つようにしていく必要がある。 		
評価	A	A期待以上 B期待どおり Cやや下回る D期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 被災地を訪れることで、災害の怖さを実感し、今後、参加者が実践すべき行動などを学習する機会を設ける機会を得た。参加者の感想や意見を報告集にまとめ、市内各学校に配付し、体験学習の内容と参加者が学んだ成果が伝わっていくように努める。 		

社会教育

4 社会教育推進体制

社会教育体制の確立は、長期的視野に立った取組が必要であることから、社会教育主事の育成を推進します。

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	4	事務事業	1
小区分	社会教育推進体制		
事業名	社会教育主事の活用	担当係	生涯学習係
事業の目的	社会教育事業推進のため専門知識を有する人材を育成しその推進に努める。		
事業内容	・社会教育主事による支援を行う。		
平成30年度実施状況	・通学合宿、子ども会活動等への支援を行った。		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係事業がスムーズに推進することができ、地域の人材育成に寄与できた。 ・通学合宿は8校区、合計98名の児童が参加した。社会教育主事は通学合宿の実行委員会の会議でその趣旨を説明、必要に応じてアドバイスを行っている。 ・子ども会活動のインリーダー研修や代表者会議で、説明等役割を果たしている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係内に新たな社会教育主事を育成する必要がある。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・さまざまな世代や地域、社会に対応するような社会教育を目指す。
-------	---------------------------------

5 青少年教育

体験学習事業、子ども会育成活動への支援、家庭教育についての事業を行います。

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	5	事務事業	1
小区分	青少年教育		
事業名	体験学習の推進	担当係	生涯学習係
事業の目的	体験活動を通して子ども達の生きる力を育む。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を通して生活習慣や様々な知識を身に付け、豊かな人間性や生きる力をはぐくむ。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・インリーダー研修会については、子ども会の内側（IN）において指導的な役割を果たす児童のことで、主に小学校高学年の児童が対象になる。下級生をリードしながら活動全体のお世話をする重要な立場にあり、子どもたちのための子ども会活動を行った。 ・ジュニア・リーダーについては、中・高校生が対象となり、インリーダーの指導的立場で活動した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インリーダー研修会は6月に合河公民館にて市内5・6年生19名と指導ジュニア・リーダー5名が参加した。 ・豊前市ジュニア・リーダークラブは40名の登録がある。（平成30年7月8日現在） ・インリーダー研修会に参加した児童が豊前市ジュニア・リーダークラブに関心を示し、7名の入部希望者があった。 ・体験学習の必要性と活用、大人・子ども・地域のつながりによる自己肯定感の育成に効果がみられた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によって活動に対する温度差や偏りがある。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・内容を深めさらに多くの市民とプログラムに取り組みます。
-------	------------------------------

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	5	事務事業	2
小区分	青少年教育		
事業名	地域との連携	担当係	生涯学習係
事業の目的	家庭教育の向上、地域教育力の活用を目指す。		
事業内容	・家庭教育推進協議会を中心に、学校との連携で家庭教育講座を実施する。また、青少年育成市民会議及び人権男女共同参画室との共催で、子育て世代を対象に講演会を実施する。		
平成30年度 実施状況	・入学説明会時に市内小学校 10 校で、基本的しつけ、子どもに示す親の姿、早寝早起き朝ごはん等、家庭教育の大切さを伝えた。 ・講演会は、助産師・思春期保健相談士の内田美智子先生を招き、助産師として 30 年以上、多くの赤ちゃんを取り上げてきたご自身の経験に基づいたお話をしていただいた。		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師に認知度の高い内田美智子先生を招いたことで参加者が多く、また、参加者のアンケートでは、感動のことばが多く、講演内容に関心を持っていただけており、満足度は高かった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年から 29 年度の 5 年間は福岡県青少年育成市民会議から交付される補助金によりコミュニケーションセミナーを開催していたが、この事業は終了し、本年度は講演会を実施した。人権男女共同参画室と共に講師料を分担することにより事業を実施できた。県補助金の終了により予算が減少しており、予算の範囲内で早い時期に事業計画を立てる必要がある。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 出産・子育て世代に周知、広報を強化する。 関心の高い題材、伝えるべき内容を考慮し、参加しやすい時間帯、曜日に講演会を開催する。 家庭教育の大切さを周知する事業について、より効果的な実施を検討する。
-------	--

【点検・評価シート 社会教育】

小分類	青少年教育	小区分	5	事務事業	3
事業名	各種団体への支援	担当係		生涯学習係	
事業の目的	社会教育団体との連携を通じて社会教育事業の推進を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会連合会、ジュニア・リーダークラブ、青少年育成市民会議、ボーイスカウトなど各社会教育団体への支援を行う。 ・地域支援事業を実施する。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会連合会では、カルタ大会や指導者講習会などを実施した。 ・ジュニア・リーダークラブでは、24時間テレビ募金活動等を実施した。 ・青少年育成市民会議では各支部への支援や花いっぱい運動等を実施した。 ・ボーイスカウトでは、野外活動訓練や各種ボランティアなどに取り組んだ。 ・地域支援事業による各地域の異世代交流や夏休み子どもの居場所づくり、通学合宿等を実施した。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体で健全で有意義な活動が実施できている。 ・近隣市町に比べ、各種団体の活動は活発である。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容や活動の見直しを行いマンネリ化を防いでおり、青少年の成長にとって有意義な活動を体験できることを、広く周知する必要がある。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・時代のニーズに応じた活動の見直しを行うことに努め、啓発・広報を行い、次世代にも事業を継続する。
-------	--

6 社会人への支援

男女共同参画拠点施設としてのハートピアぶぜん、ヤルディぶぜんでの学習支援事業や、ボランティア団体の育成、各種団体への支援などを行います。

【点検・評価シート　社会教育】

	小区分	6	事務事業	1												
施 策 名	社会人への支援															
事 業 名	学習機会の提供		担当係	生涯学習係												
事業の目的	市民のニーズに合わせた社会人への学習機会を提供する。															
事 業 内 容	・ハートピアぶぜん、ヤルディぶぜんなどの講座を実施する。															
平成30年度 実施状況	・豊前市男女共同参画行動計画に示される「男女がともに輝くまちぶぜん」を実現するために余暇を利用して健康維持、教養、クラフト、クッキング、実用講座など幅広い講座を実施した。(ハートピアぶぜん 13 講座、ヤルディぶぜん 10 講座、その他特別講座を実施) 男女共同参画拠点施設として「心の相談」窓口を開設している。															
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 多数の受講者が様々な講座を受講し、目標に向かい教養やスキルを深め、受講者同士の交流を通して、生き生きとした日々を過ごす一助となっている。 <p>平成30年度実績</p> <table> <tbody> <tr> <td>ハートピアぶぜん</td> <td>13 主催講座延べ 3,926 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>グループ等利用延べ 11,251 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般利用(共催講座含)等延べ 4,832 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>年間施設利用者数 20,009 人</td> </tr> <tr> <td>ヤルディぶぜん</td> <td>11 主催講座・3 特別講座 延べ 3,038 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>年間施設利用者数 9,070 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な趣味、教養、健康講座の可能性を模索し、新たな講座を開設し、市民のニーズに応えたい。 令和2年度から令和3年度に実施される市庁舎耐震改修期間中、会議室や荷物置き場としてヤルディぶぜんの一部を使用するため、通常の利用が制限される。 	ハートピアぶぜん	13 主催講座延べ 3,926 人		グループ等利用延べ 11,251 人		一般利用(共催講座含)等延べ 4,832 人		年間施設利用者数 20,009 人	ヤルディぶぜん	11 主催講座・3 特別講座 延べ 3,038 人		年間施設利用者数 9,070 人			
ハートピアぶぜん	13 主催講座延べ 3,926 人															
	グループ等利用延べ 11,251 人															
	一般利用(共催講座含)等延べ 4,832 人															
	年間施設利用者数 20,009 人															
ヤルディぶぜん	11 主催講座・3 特別講座 延べ 3,038 人															
	年間施設利用者数 9,070 人															
評 値	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下											
今後の対応	・様々な価値観、ニーズに対応するような講座の充実を図る。 ・ヤルディぶぜんの利用者の活動を継続するために可能な限りの支援を検討し実施する。															

【点検・評価シート 社会教育】

		小区分	6	事務事業	2
施 策 名	社会人への支援				
事 業 名	地域の課題解決に向けた人材育成		担当係	生涯学習係	
事業の目的	地域住民が自らの知識や経験を活かし、地域課題の解決に関わっていくきっかけとなる先導的な講座「ぶぜん地域活動スタートアップ講座」を開催し、住民が主体的、自発的に地域に関わっていく人材育成を目指す。				
事 業 内 容	・地域での活動を希望する人たちを募り、そのノウハウを学ぶため、ぶぜん地域活動スタートアップ講座を開催する。				
平成30年度 実施状況	・講座を開催し、講座を通じてあらゆる方面からのボランティアがネットワークを構築し、定期的に情報交換を行っている。				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年にわたって開催されたこの講座は、多世代交流の場づくり、地域の歴史発掘、子育てネットワーク、高齢者支援など多様な分野のボランティアグループが設立されるきっかけとなった。2 団体が社会福祉協議会のボランティアセンターに登録し、ボランティアセンターの機能充実につなげることが出来た。また、本講座の受講により、NPO 団体が 1 団体立ち上がった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの活動については自立活動を確認できた。平成 30 年 4 月 1 日にボランティアセンター運営協議会が設立され、ボランティアセンターの機能強化への取組が始まり、総合政策課とともに社会福祉協議会と連携している。 				
評 値	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	・今後は「ぶぜん地域活動スタートアップ講座」で設立された団体等についてもボランティアセンターで一元管理し、活動支援が受けられるように社会福祉協議会へ経緯を引き継ぎ、本事業は終了とする。				

7 公民館運営

異世代間交流の促進や地域コミュニティ、情報発信基地としての見直しを行い、幅広い業務の展開と施設の機能強化を図ります。

【点検・評価シート「社会教育】

小区分	小区分	7	事務事業	1
小区分	公民館運営			
事業名	地域活動の拠点としての体制整備		担当係	生涯学習係
事業の目的	情報発信基地としての機能強化を図る。			
事業内容	・ダイレクトな地域情報の発信拠点として、公民館施設を活用する。			
平成30年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に「豊前市生涯学習推進基本計画」の策定を行い、公民館の活性化について協議し、地域づくりの拠点として地域活性化事業を進めている。 豊前市地域づくり協議会設置要綱等交付し、体制整備を行った。 			
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの公民館が地域のコミュニティ活動の拠点となり、子どもから高齢者まで地域活動の中心となり機能している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内11地区の公民館については、地域づくり協議会の設置、併せて地域づくり計画の策定を推進しているが、各館の状況に応じた進捗状況となっているため、今後も引き続き予算等再編成の見通しをたてながら、取り組む必要がある。 			
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下		

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 市内11の全地区公民館について、公民館運営審議会を地域づくり協議会に移行し、地域づくり計画の策定に取り組む。 将来的な目標として、コミュニティセンターの概念を周知し、その転換を図る。
-------	--

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	7	事務事業	2
小区分	公民館運営		
事業名	施設機能の整備		
事業の目的	地域の拠点施設としてコミュニティを含めた施設運営を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を地域の活動拠点として活性化するため、社会教育施設としてだけではなく、福祉、子育て、防災などに対応できるシステムを構築する。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・千束公民館の調理室と和室の間にある鉄筋コンクリート造りの壁に開口を設置した。 ・合河公民館のブロック塀診断カルテにより、穴あきブロックが危険なため取り壊し、フェンスを設置した。 ・中央公民館の耐震診断を行い、耐震性に問題ない結果が得られた。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在ある施設の効率化安全化が図れた。千束公民館は、日常活動及び防災面で施設を有効活用できる形状となり、合河公民館はブロック塀の倒壊の危険を回避できた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の長寿命化を図る予算確保が難しい。 ・社会的背景や利用者の要望をくみ取り対応する。 ・防災拠点としての施設整備や活用拠点としての整備を進める。 		
評価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・公民館の老朽化にともない必要な施設機能の維持に努める。
-------	------------------------------

スポーツ振興

8 地域スポーツの振興

スポーツ人口の底辺の拡大、競技スポーツにおける一貫した指導体制の確立を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

		小区分	8	事務事業	1		
小区分	地域スポーツの振興						
事業名	総合型地域スポーツクラブ事業		担当係	スポーツ振興係			
事業の目的	地域での生涯スポーツ活動の推進を行う。						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。 						
平成30年度実施状況	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶぜんピープルズは、ジュニアから高齢者までを網羅した生涯スポーツの一翼を担っている。 ・総合型地域スポーツクラブ「よううや」は、地域住民の健康と体力維持及び介護予防等を目的として活動を行った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶぜんピープルズは毎年実施している「ぶぜんピープルズ祭」に「障がい者スポーツ体験コーナー」を設置するなど、幅広い活動と自主財源の確保に努めているが、財政面での支援が必要である。 ・総合型地域スポーツクラブ「よううや」は健康体操・介護予防等を目的とした地域密着型クラブとして活動を開始したが、独立運営を目指すには会員数確保が問題となっている。スポーツ振興くじ助成金の「総合型地域スポーツクラブ自立支援事業」を活用し、体制の強化を行う。 						
評価	A	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下		
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブが担う生涯スポーツと障がい者スポーツを更に推進する。そのため、介護予防等に取組む団体、健康長寿推進課、福祉課、社会福祉協議会や障がい者団体等との連携を深めていきたい。 						

9 スポーツ活性化

青少年のスポーツの振興を図るべく、プロスポーツ選手等との交流を行います。

【点検・評価シート スポーツ振興】

小区分	9	事務事業	1
小区分	スポーツ活性化		
事業名	青少年のスポーツの振興	担当係	スポーツ振興係
事業の目的	青少年の健全育成のため、青少年のスポーツの振興を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手等による各種指導教室を開催する。 		
平成30年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール教室 元プロバスケット選手青木康平氏（小学生 23名・中学生 21名） ・サッカー教室 ギラヴァンツ北九州プロ選手 2名・コーチ 4名（小学生 52名） ・野球教室 ソフトバンクホークス選手 2名・元ソフトバンクホークス選手 2名（小学生 47名・中学生 63名） ・バドミントン教室 與猪くるみ氏（ヨネックス所属）と九州国際大付属高等学校バドミントン部（小学生 17名・高校生 20名・一般 7名） ・ゴルフ教室 プロ選手 2名・ティーチングプロ 2名（小学生 16名） 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロ選手及び国内トップクラスの選手による指導で、参加者は意欲的に取組むようになってきている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ未経験青少年がスポーツを始めるきっかけづくりとするため、各種指導教室への参加を促す。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手等による各種指導教室を継続開催し、青少年のスポーツの振興活動を行う。
-------	---

10 施設の整備

スポーツ施設の整備を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

小区分	施設の整備	小区分	10	事務事業	1
事業名	体育施設の整備	担当係	スポーツ 振興係		
事業の目的	市民スポーツ推進のため、必要な施設の整備を行う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動施設の整備をする 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市民球場の内野・外野グラウンド整備とピッチャープレート及びホームプレート取替修繕を行った。 ・豊前市民体育館駐車場内の街灯（LED）取替を行った。 ・豊前弓道場防矢ネット設置等を行った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊前市民プールに於いては、熱中症対策の効果もあり、期間中利用者が来場しやすい施設となった。 ・豊前市民球場が内野・外野がきれいになり使いやすい施設となった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊前市能徳運動広場施設のトイレ洋式化が必要。 ・豊前市民体育館、豊前市民武道館、豊前市民球場、豊前市能徳運動広場テニスコートの経年劣化による老朽化が目立っている。特に豊前市民プールは老朽化している。 ・照明（ナイター）施設のLED化が喫緊の課題。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも計画的な整備を行う。 				

生涯学習

1.1 生涯学習推進体制

職員に対し意識の徹底を図り、市民への情報提供を行います。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	11	事務事業	1
小区分	生涯学習推進体制		
事業名	豊前市生涯学習推進基本計画	担当係	生涯学習係
事業の目的	地域の課題解決のため、「学習プログラムの構築、生涯スポーツの推進、公民館の活性化、地域の力を活かす」を重点目標に事業を実施する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に生涯学習基本計画の策定を行い、「豊前市生涯学習推進基本計画」に沿って豊前市生涯学習プログラムを市内全戸配布し、生涯学習推進協議会を立ち上げ具体的な事業実施について協議を行う。 		
平成30年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民による自主的な地域活動の運営及び地域における課題の解決を図ることにより、豊かで住みやすい地域づくりに寄与することが「地域づくり協議会」設立の目的であること、公民館運営審議会を基盤としつつより多くの地域に係る団体、個人とともに取り組むことを説明しつつ、設立から地域づくり計画策定に向けて取り組んだ。「豊前市地域づくり協議会設置要綱」、「豊前市地域づくり協議会支援事業補助金交付要綱」、「地域づくり協議会支援事業審査会設置要綱」を施行した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 各公民館で地域力や課題に特色があり、4地区で協議会を設立し、そのうち1地区が地域づくり計画を策定した。協議会未設立の地域においては継続して今後の運営体制の構築に向けて準備を行った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地域の現状と特色に応じた取り組みを行いながら、進捗状況を丁寧に調整しつつ推進する。今後、地域活性化に向けた具体的取組を行うべく地元との協働の仕組み作りに取り組む。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 全地区地域づくり協議会を立ち上げ、地域づくり計画を策定し、地域活性化事業（仮称）に取り組む。 次年度以降の事業の内容を精査検討して、実りが期待できるビジョンを構築したい。 		

1.2 情報提供

情報を一元化し、公共施設や生涯学習施設等と連携して活動の場、交流の場の情報を提供します。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	12	事務事業	1
小区分	情報提供		
事業名	生涯学習プログラムの構築		
事業の目的	生涯学習の推進を図る上で、全庁内でのイベント、施策などの情報を一元化し、情報の提供を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進幹事会で、各課からの情報提供を受けそのデータベース化を図る。 		
平成30年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページ及びパンフレットを作成し、生涯学習情報として公開した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットにより、イベント施策などの理解が容易となった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プログラムの活用について、学びあい講座紹介パンフレットで地域への働きかけを行う。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各課から提供される情報のデータベースの有効利用を図る。
-------	--

1.3 生涯学習の実践

市役所職員による実施を可能とするため、十分な職員研修が必要であり、職員の資質の向上を図ります。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	13	事務事業	1
小区分	生涯学習の実践		
事業名	市役所職員による出前講座の実践	担当課	生涯学習係
事業の目的	行政施策、行政情報を学習プログラムとして構築する。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスの内容を学習メニューとして構築し、公民館などの学習会等で必要に応じて提供する。パンフレットでも紹介する。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市学びあい講座紹介パンフレットを全戸配布し、要望のあった講座については、各課で実施をした。 ・市政出前講座として「市政の仕組み」7講座・「住民生活」3講座・「保険年金、福祉、健診、医療」7講座・「子育て、教育」3講座、「環境・都市基盤」3講座、「文化、スポーツ」2講座、「その他」6講座あわせて31講座を案内している。 ・「文化、スポーツ」の体力測定講座では3地区59名に対して体力測定を実施し、体力の向上に努めるよう指導した。文化はふれあい学級などで4回実施した。 		
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各課での工夫とPRが必要である。 		
評価	C	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページなどで情報の一元化を図り、PR活動を行う。
-------	--

【点検・評価シート 生涯学習】

		小区分	13	事務事業	2
小区分	生涯学習の実践				
事業名	ボランティアの推進			担当係	生涯学習係
事業の目的	「知の循環」としてボランティアの活用を図る。				
事業内容	・書道ボランティアを学校等に派遣する。				
平成30年度 実施状況	・書道ボランティアは8小学校で20名のボランティアにより実施した。 ・ボランティアコーディネーターを配置することにより、平成30年4月1日にボランティアセンター運営協議会を設立し、総合政策課、社会福祉協議会と連携して、ボランティアセンターの機能強化を図った。				
成果・課題	成果 ・書道ボランティアは8小学校で実施され、239名の子ども達に指導した。 課題 ・書道ボランティアの高齢化により、後継者の育成が喫緊の課題。 ・派遣分野の拡大を図るため、ボランティアセンターのさらなる機能強化が必要である。 ・ボランティアセンターとの連携・協力を図る。現在豊前市ボランティアセンター運営協議会に参画し取組を推進している。書道ボランティアもボランティアセンターの一員としての活動を検討するとともに、コミュニティスクールの取り組みの中で活動を検討する必要がある。				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	・社会福祉協議会から一元化した情報を発信し、PR活動を行う状況になったときは、市のホームページにリンクをはり情報発信の協力を行う。
-------	---

文化財の保護と活用

1.4 文化財の整備と活用

文化財を活用した教育普及活動は最も重要な施策で、求菩提資料館、豊前市立埋蔵文化財センター、各種講演会、学校への出前歴史授業、出版物などで紹介します。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	14	事務事業	1
小区分	文化財の整備と活用		
事業名	豊前市歴史文化基本構想の推進	担当係	文化芸術係
事業の目的	豊前市歴史文化基本構想を策定し、今後の文化財保護活用の指針とする。		
事業内容	・豊前市歴史文化基本構想の策定。		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none">・委員会を開催した。・「豊前市歴史文化基本構想」を策定し、計画書を刊行した。		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none">・策定委員会により構想の方向性が示された。①宇佐神宮への道②求菩提信仰の路③中津街道④瀬戸内海のみち⑤維新へのみちの5つのテーマを定め関連文化遺産群を設定した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・構想策定後の地域計画にどうつなげるかが課題となる。		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none">・文化財保存活用地域計画への移行を検討する。・令和3年度以降は、国の補助メニューを活用しての事業を実施したい。・第5次豊前市総合計画、史跡求菩提山整備基本計画、求菩提地区文化的景観保存計画との整合性を図りつつ、より文化財の活用を推し進めた構想とする。		

1.5 文化財の公開

求菩提資料館と埋蔵文化財センターを活用して、さまざまな情報の提供を行います。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	15	事務事業	1
小区分	文化財の公開		
事業名	展示施設の整備と教育普及活動	担当係	文化芸術係
事業の目的	施設を利用して調査収集した文化財資料を一般に公開し、地域の歴史に対する理解を深め、文化財愛護精神の高揚並びに、地域文化の再認識につなげる。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 求菩提資料館の常設展での修验道文化の紹介や企画展やミニ企画展でのテーマや対象をしぼった取組で幅広い層の取込みに努める。 豊前市立埋蔵文化財センターの一般公開や出前歴史教室、校外学習受け入れ等により、地域の歴史の理解を促す。 		
平成30年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 求菩提資料館では、企画展、市民歴史講座、ふるさと写真コンクール入選作品展、ミニ企画展、早春企画展「ひなまつり」などを開催した。 豊前市立埋蔵文化財センター見学…小学校4校 豊前市立埋蔵文化財センター職場体験学習受入…高校1校、中学校2校 豊前市立埋蔵文化財センターでは、夏・秋トピック展2回、ギャラリートーク1回、第5回企画展『地の記憶～弥生の息吹き～』、夏休み体験講座2回を実施した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 求菩提資料館は年間入館者 21,364 人（前年度入館者数 15,571 人） 豊前市立埋蔵文化財センターの年間入館者数 2,426 人（前年度入館者数 1,903 人） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 求菩提資料館の設備の老朽化への対応と豊前市立埋蔵文化財センターの入館者をどう増やすか。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 資料の保存展示については、求菩提資料館と豊前市立埋蔵文化財センターが連携し、施設相互に見学者の流れが出来ることを目標にする。 求菩提資料館の老朽化等の問題については、県の施設であることから今後も新求菩提資料館建設促進期成会で要望活動を行う。 豊前市立埋蔵文化財センターは企画展講座等の充実を図り活用を促進する。 		

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	15	事務事業	2
小区分	文化財の公開		
事業名	各種情報の発信		
事業の目的	豊前市内の文化財の情報を、インターネットや冊子資料を通して外部へ発信し、全国に豊前市をPRする。また豊前市のイメージ作りと、観光客への情報提供の手段とする。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市ホームページを活用し、民俗芸能情報や指定文化財の紹介をインターネットで配信するほか、紙媒体（ガイドブック等）についても活用する。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市ホームページに当年度の神楽奉納日程情報などの民俗芸能情報や指定文化財の紹介を掲載した。 ・豊前市立多目的文化交流センターでの豊前市、京築地域の民俗芸能に関する展示を実施した。 ・平成28年度に制作した豊前神楽案内帖を豊前市立多目的文化交流センターと豊前市立埋蔵文化財センター、求菩提資料館で配布し、神楽奉納箇所の周知等を行った。 ・副読本「求菩提山」を各小学校の5年生に配布した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽奉納、公演等に市内外からの問合せや来訪者が増加している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的文化交流センターの映像資料の更新。 ・SNS等の活用を検討する。 ・文化財の周知については、今後も指定物件に変動が予想されるため、その都度情報更新が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽の奉納日程、奉納場所アクセス情報などの問い合わせが例年多く、より詳細な内容が求められている。特に需要の多い項目の周知化に重点をおきたい。 ・郷土の歴史・文化カリキュラムを作成し、学校での活用を図る。 ・副読本「求菩提山」を各小学校の5年生に配布する。 		

1.6 無形民俗文化財の伝承

保存、伝承に向けた体制整備を行い、支援体制の確立を目指します。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	16	事務事業	1
小区分	無形民俗文化財の伝承		
事業名	保存と伝承活動の支援	担当係	文化芸術係
事業の目的	伝承団体相互の連携を強め、また伝統芸能の伝承を通じて地域コミュニティの構築に寄与し、地域の伝統文化の継承の一助とする。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前岩戸神楽保存会などの運営を行う。 ・様々な助成事業などを活用し、伝承事業の支援を行う。具体的には保存団体の状況を把握し、市の助成金制度や他団体の制度を紹介しながら、必要な支援を行う。 ・豊前感応楽の国指定を目指し、民俗文化財調査事業を行う。 		
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保存会において各神楽講で情報交換し、民俗芸能調査の依頼や京築連帯アメニティ関連イベントなどの出演依頼に関する業務を円滑に行った。 ・民俗文化財調査事業の成果をまとめ、調査報告書の編集・刊行を行った。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能の豊前市内外への情報発信を行った。 ・京築連帯アメニティの事業を通じて、豊前神楽の広報P Rに努めた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽や民俗芸能については開始時間や場所の問い合わせが多いため、市のホームページや広報、豊前市立多目的文化交流センターでの展示などを通じて情報提供する。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽以外の民俗芸能についての支援を進める。 ・事業の継続、保存団体に対する年間の補助及び保存団体等が行う保護事業などでの補助基準の整備を行う。
-------	---

17 歴史遺産の活用

ガイドボランティアについて更なる充実を求め、外部からの来訪者に対して均質的なサービスの提供を図ります。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	17	事務事業	1		
小区分	歴史遺産の活用				
事業名	ガイドボランティアの支援	担当係	文化芸術係		
事業の目的	官民協働を推進し、地域の人材を活用して活性化を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・求菩提資料館を拠点として、史跡を紹介する豊前市史跡ガイドボランティアの会の活動を支援する。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・一般見学者向け又は学校の校外学習等での史跡ガイド要請への対応の他、求菩提資料館の企画展やミニ企画展時の展示替え、館内巡回その他イベントの作業等、研修に参加した。また、活動地域に存在する岩屋坊の清掃ボランティア活動も行った。月例会でスキルアップのための養成講座を実施した。 ・豊前市立埋蔵文化財センターの活用促進とメンバーのスキルアップを兼ねて、平成25年度から豊前市立埋蔵文化財センターの日・祝日の管理、案内を豊前市史跡ガイドボランティアの会に委託している。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド出動件数 15 件、案内人数計 254 名（前年度計 15 件、316 名） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化がすすみ、新たな人材の確保と育成が急務である。現在、養成講座を続けており、新規メンバーの定着が見られる。 ・豊前市史跡ガイドボランティアは文化財に限らない観光面での需要もあり、従来の文化財ガイド業務の水準を保ちつつ活用の場を広げるために、実働可能なメンバーの確保が急がれる。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新規メンバーの募集を進める。 ・求菩提資料館、豊前市立埋蔵文化財センター、豊前市立多目的文化交流センターなど文化財展示設備を有する文化施設を含めたプログラムの定着を図る。 				

芸術文化の振興

18 芸術活動

文化施設の整備、活動環境の整備を行い、文化活動の推進を図り、参加による体験を通した芸術文化の振興を行います。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

小区分	小区分	18	事務事業	1	
小区分	芸術活動				
事業名	文化事業の実施、場の提供		担当係	文化芸術係	
事業の目的	豊前市立多目的文化交流センターや豊前市市民会館の活用を通じて、市民に上質な芸術文化の提供を行い、心豊かな市民生活形成の一助とする。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市立多目的文化交流センターを豊前市市民会館と共に文化活動の拠点とする。 				
平成30年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市立多目的文化交流センターは第16回豊前市美術展、ミニコンサート九州交響楽団木管五重奏、京築地域の神楽定期公演等に活用した。 ・豊前市市民会館では子ども文化事業として、サイエンスショー、夏休み子ども映画館・春休み子ども映画館、漆工芸教室を実施した。自主文化事業として倍賞千恵子講演会を開催した。 ・文化事業の立案・施行が効率よく実施できるように豊前市立多目的文化交流センターと豊前市市民会館をあわせて指定管理者選定を行った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊前市立多目的文化交流センターは年間入場者数33,338人、年間利用件数1,485件であった。 ・豊前市市民会館年間利用件数422件であった。豊前市市民会館の老朽化により利用数は減少傾向にあるが、定着した利用者層もいる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊前市市民会館は老朽化とバリアフリー化の対応ができておらず、現在は小規模修繕を重ねているが、将来的には全面的に建替が必要である。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の内容に応じた使い分けは定着しつつある。 ・豊前市市民会館と豊前市立多目的文化交流センターは平成31年度より指定管理者へ管理委託する。
-------	---

19 読書活動

図書館の充実、学校図書館の支援、ボランティア活動の支援をしていきます。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

小区分	読書活動	小区分	19	事務事業	1
事業名	豊前市立図書館の充実	担当係	文化芸術係		
事業の目的	より一層の豊前市立図書館サービスの充実を図る。				
事業内容	・豊前市立図書館と移動図書館車の活用を行う。 ・図書館まつり、高齢者読書推進サービス、図書館講座、おはなし会、ブックスタート、映画上映会、企画展などを実施した。 ・図書館サービスポイント（出張窓口）を岩屋活性化センター・角田公民館に加え横武公民館・大村公民館にも設置し、図書の貸出返却・予約・リクエスト・簡易検索・貸出券発行を行う。 ・7～8月はサマータイムを実施した。（1時間延長） ・指定管理者の契約期間満了にともない、次期指定管理者選定を行った。				
平成30年度 実施状況	成果 ・来館者数 62,489人（前年度 79,466人）、貸出者数 32,380人（前年度 35,000人）、貸出冊数 152,763冊（前年度 156,576冊） ・移動図書館車は幼稚園・保育園、小中学校、福祉施設等市内 40カ所をステーションとし、月2回運行している。 ・会議室の利用数 211件 ・高齢者読書推進サービスは延べ利用人数 144名、延べ貸出冊数 1,080冊の利用があり、来館が困難な高齢者への利用促進となつた。 課題 ・サマータイム、図書館サービスポイント等の取組みを導入したが、更に効果のある取組みとなるよう改善していく。 ・豊前市立図書館の今後の有効活用、事業展開、読書推進活動を行うボランティア団体等との関係構築などが課題となっている。				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	・広報の方法、企画の充実、連絡体制などの充実を行う。 ・性別年齢に偏りのない蔵書構成となるように選書を行い、広いニーズに応えられる図書館を目指す。 ・図書館出張窓口の利用促進を図る。 ・宅本サービスにより自力来館の困難な方への貸出を増やす。				

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

小区分	19	事務事業	2
-----	----	------	---

小区分	読書活動		
事業名	学校図書館との連携 担当係 文化芸術係		
事業の目的	学校と豊前市立図書館を連携させることで読書推進に寄与し、資料の共有活用に努める。		
事業内容	・団体貸出の推進と、学校教育活動に対する資料提供を図る。 ・小・中学校に対する団体貸出やブックトークなどの活動を継続している。 ・豊前市読書リーダー養成講座を豊前市立図書館で実施した。参加数は市内10校の小学4~5年生19名であった。 ・第3次豊前市子ども読書推進計画を平成30年度から5年間(～令和4年度)施行する。この計画を子どもがそれぞれの発達段階・個性に応じ、自主的な読書活動が推進できるような環境の整備を推進する指針とする。		
平成30年度 実施状況			
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での豊前市小学生読書リーダー養成講座や小・中学校に講師を派遣してのブックトークを実施し、子ども達への読書に対する関心を高めることができた。 ・うちどくりレーを実施した小学校で、自主的に継続する小学校が1校あった。 ・学校図書館連絡協議会・ステーション協議会で図書館車運行ステーションになっている施設の担当者と豊前市立図書館との協議の場を年1回設けている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在巡回で配置している学校司書の充実が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3次豊前市子ども読書推進計画」に則り子どもの読書活動を推進する。 ・読書リーダー養成講座を継続化し、学校・市立図書館・各学校を拠点とする読書推進ボランティアの連携を図る。 ・子どもの読書活動充実事業終了後、うちどくりレーを継続して取組んでいく。 		

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する意見

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、12年継続で点検・評価に取り組み、必要な改善が行われ、年々充実したものになってきている。

今年度は、昨年度に引き続き、実情に応じた小区分・事務事業の見直しを行った。

「就学前教育」及び「学校教育」については、10事業中A評価が合わせて3事業、B評価が6事業、C評価が1事業で、特に、一昨年度から加わった宮城県東松島市への「被災地震災体験学習」や、「心の問題への対応」についても特に教育相談の果たす役割は期待以上に評価できるとした。また、小・中・高校、幼稚園保育園所の連携、特別支援教育総合推進事業については、豊前市の特色ある取組として、さらなる充実を期待する。一方、学校施設の老朽化に伴う修理・修繕、特にトイレ改修については対応を進めるために、学校施設の個別計画・長寿命化計画を策定し、計画的な施設管理を進めていく必要がある。

「社会教育」については、8事業中A評価が1事業、B評価が7事業で、「施設機能の整備」(公民館運営)を期待以上に評価している。今後のさらなる取組に期待したい。

「スポーツ振興」については、3事業中A評価が1事業、B評価が2事業で、地域スポーツ、青少年スポーツとともに積極的な取組で期待以上と評価している。今後とも、関係の団体との連携を深め、これからも継続した取組と施設の整備に向けて更なる努力を期待する。

「生涯学習」については、4事業中B評価が3事業、C評価が1事業で、豊前市生涯学習推進基本計画に基づく事業の推進を通じて、実現が図られることを期待する。なお、出前講座は、周知のため、市のホームページなどで情報の一元化を図り、PR活動を行うなど、より工夫が必要であり、さらなる努力を期待する。

「文化財の保護と活用」については、5事業いずれもB評価で、期待通りの評価をしている。豊前市史跡ガイドボランティアの会は、史跡ガイドや求菩提資料館関係だけでなく豊前市埋蔵文化財センターの休日の管理や展示案内なども担っている。また、副読本「求菩提山」については、今後、郷土の歴史・文化カリキュラムの作成により学校で活用されることを期待したい。更に、文化財を活用したプログラム、事業や各種講座、施設展示、豊前神楽の日程など、より詳細でわかりやすい内容の情報提供、広報・周知に努められたい。

「芸術文化の振興」については、3事業いずれもB評価としている。豊前市市民会館については老朽化に伴う施設の根本的な見直しが必要である。また、豊前市立図書館については、指定管理者により運営されているが、さらなるサービスの向上に努めたい。なお、豊前市市民会館と豊前市立多目的文化交流センターにおいても、平成31年度より指定管理者制度を導入し、今後更なる芸術文化の振興に期待したい。

平成30年度の全体の評価としては、概ね適正に実施され、各係において創意工夫された取組がなされている。

教育委員会は、常に教育現場や地域の市民の視点から巡察し、現状把握と改善に努められたい。

令和元年11月26日

森重高岑

中川章